

### 旧増田家住宅 1

明治中期頃に建築された大形民家。茅葺木造一部二階建てで、ヒバ・ケヤキ材が用いられています。増田家は小中野地区(つがる市森田)の開拓地主で、代々村長や県会議員を務めました。平成9年(1997)現在地に移築されました。



### 床舞館 2

床舞集落東部の台地に立地する城館。空堀・土塁などの城館遺構は不明瞭ですが、館主として葛西伊勢、波多野(野呂)勘解由などの名が伝えられています。伝承などからは戦国～江戸初期の館跡と考えられますが、土師器・須恵器・鉄滓などが採集されていることから、歴史は平安時代に遡ると考えられます。

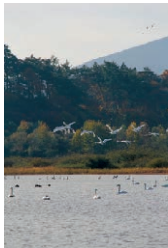
### 森田歴史民俗資料館 3

昭和50年(1975)開館。石神遺跡出土品を展示しています。国重要文化財に指定された219点の遺物をはじめ、北日本の縄文時代前期～中期を代表する円筒土器の移り変わりが、一目でわかるようになっています。開館時間 9:00～16:00/休館日 月・火・木・金曜日・年末年始/観覧料 大人200円、高・大学生100円、小・中学生50円/TEL0173-26-2201



### 狄ヶ館溜池 4

岩木山北麓に位置する溜池。面積37.7ha・有効貯水量87万■・灌漑面積178ha。寛文12年(1672)広須・床舞・長科各村の開墾に際し、築造されました。



### 石神遺跡 5



岩木山北麓台地の先端部に立地する、縄文前～中期の集落。昭和40年(1965)・42年(1967)慶應義塾大学江坂輝彌・弘前大学村越潔らの発掘調査により、縄文前～中期の円筒土器が年代順に出土し、円筒土器研究に大きな役割を果たしました。出土遺物は、つがる市森田歴史民俗資料館に収蔵されていますが、うち219点が平成2年(1990)国重要文化財に指定されました。旧森田村・つがる市教育委員会による近年の調査では、居住域と墓域からなる集落構成が明らかとなっています。

### 妙堂崎のモミの木(トドロッコ) 6

江戸時代前期、妙堂崎村の開拓前後に植えられたと推定されるモミ。推定樹齢350年・樹高約30m・幹周約600cm。「トドロッコ」の通称は、アイヌ語とも伝えられますが、詳細は不明です。



### 護念院僧形立像 7

浄土宗護念院所蔵。厚板状の一材から彫り出した木像。大きく膨らんだ腹と両胸の表現が特徴的で、古来授乳祈願の信仰を集めていました。

### 旧川村家住宅 8

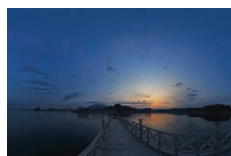


明治7年(1874)木筒村(鶴田)後中野地区の川村半助によって建てられた茅葺木造平屋建。川村家は、鶴田を代表する豪農で、政財界においても成功を収めました。平成7年(1995)廻堰地区に移築され、「鶴の里ふるさと館」に生まれ変わりました。

### 廻堰大溜池(津軽富士見湖) 9

岩木山北東麓にある溜池で、津軽富士見湖とも称します。面積281ha・有効貯水量1,110万■・灌漑面積400ha。広

須新田の開発に伴って計画され、万治3年(1660)廻堰の大堤奉行を命じられた樋口権右衛門が築造、寛文4年(1664)完成しました。溜池奉行ほか、溜池奉 handing 手伝・大溜池樋並用水方見継役などが置かれ、溜池の管理に当たりました。



### 大巻渡 10

岩木川中流部、大巻村(鶴田)と対岸の桑野木田村(つがる市柏)を結ぶ渡場。明治13年(1880)の記録では、幅75間(136m)・馬船1艘となっています。戦後直後まで利用されました。

### 鶴田渡 11

岩木川中流部、現在の鶴壽橋付近、鶴田村と対岸の木筒村(鶴田)を結ぶ渡場。明治13年(1880)の記録では、幅50間(91m)・馬船1艘・小船1艘となっています。明治26年(1893)永代橋(現鶴壽橋)架橋に伴って廃止されました。

### 菖蒲川渡 12

岩木川中流部、現在の保安橋付近、菖蒲川村・笹森村(鶴田)と対岸の野木村(鶴田)を結ぶ渡場。明治13年(1880)の記録では、幅75間(136m)・馬船1艘・小船1艘となっています。明治17年(1884)保安橋架橋に伴って廃止されました。

### 胡桃館跡 13

胡桃館(鶴田)集落東方、周囲の水田との比高差1～2m程度の微高地上に位置します。300m四方あったとされますが、現在はリング畑として利用され、原形をとどめていません。南部氏方の居館で、藤崎の北方の防衛拠点であったと伝えられます。